明治三十七年九月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第拾巻第壹號

目次

◎不朽の希望……河井道子
◎根據ある信仰……神學博士 高木壬太郎
◎神の國……マクドナルド
◎幸福の道……二宮貞子
◎寡婦の兒……小鹽高恒
◎修養雜話……白井胤祿
◎基督教と人生……柏井園
◎けふのねがひ……ホイチアー作 森田松榮子譯
◎會の消息……
日本基督教女子青年會△東北女子青年修養會△東京基督教女子青年會△横濱共立女學校青年會
◎廣告……

日本基督教女子青年會發行

東京基督教女子青年會

女子寄宿舍

基督教女子青年會は在東京女學生にして家庭又は適當の保護者のない方々のために家庭に於けると同樣に勉學の出來るやうにする希望を以て現に左の二ケ所に女子寄宿舍を設け女學生諸子のために及ぶ限りのお世話を致して居ります。

牛込區納戶町四十五番地　第一寄宿舍
舍監　門倉ふじ子

小石川區水道町廿八番地　第二寄宿舍
舍監　大西絹子

入舍希望の方は願書を各寄宿舍々監宛て直接に御送り下さい。又た詳細のことは御照會次第御返事いたします。

又た短期の宿泊も許しますから講習等の爲に御出京の方々にも宿泊の便宜を圖る事が出來ます。

東京基督教女子青年會
寄宿舍委員長　今西糸子

「女子青年界」

一、「女子青年界」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する雜誌也。

一、「女子青年界」は一年分郵税共五拾錢、一部郵税共金五錢とす。

一、日本基督教女子青年會は女子の衞生、社交、智識、靈性上の發達を圖るための團體也。

一、日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

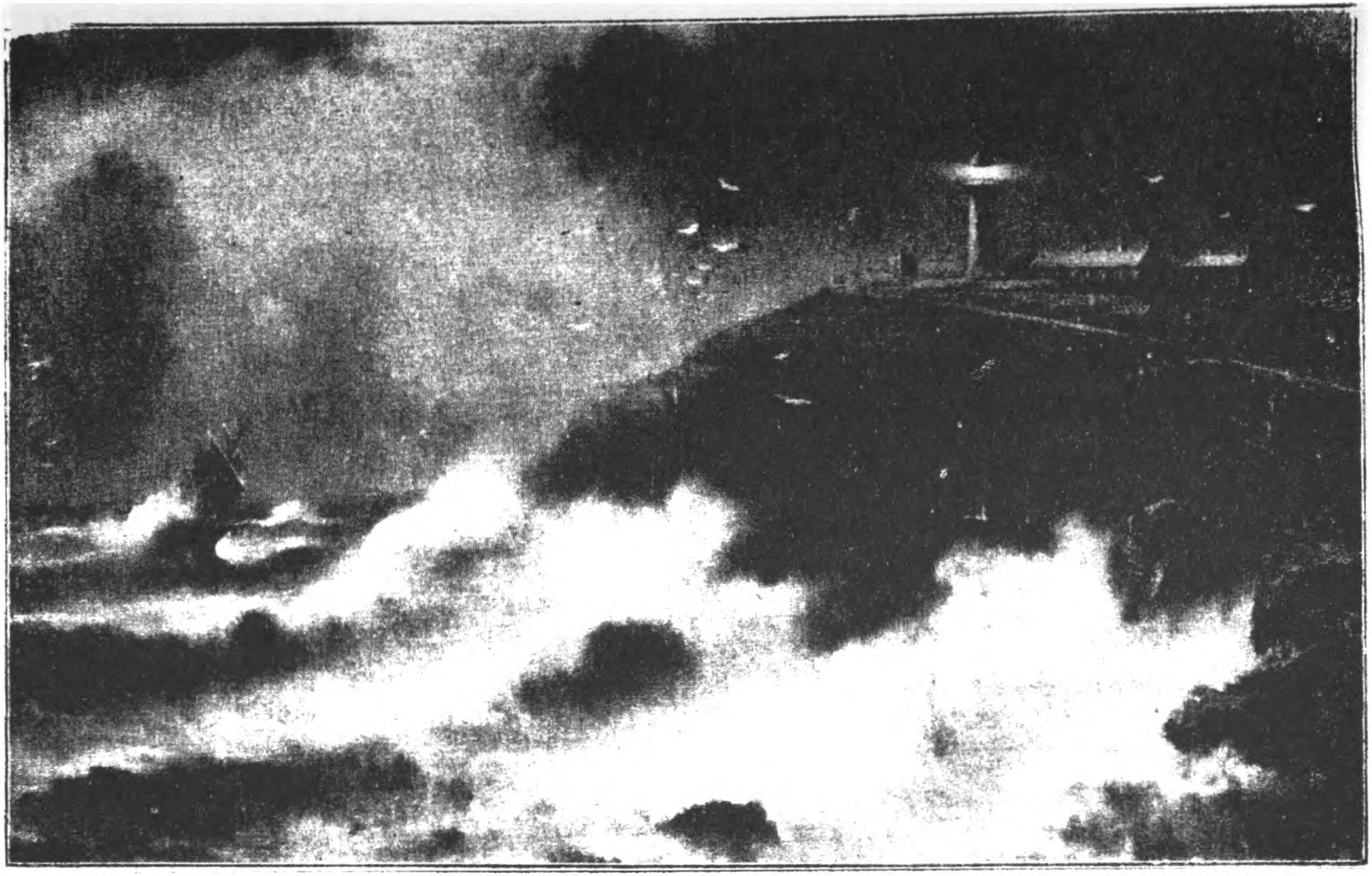
委員長　井深花子
副委員長　岡見慶子
記錄書記　三谷民子
會計　井上友子
萬國基督教女子青年會同盟委員
萬國學生基督教同盟會委員　河井道子
「女子青年界」編輯主任　小此木松子

東京在住委員
澤田梅子　鈴木歌子　長谷川嘉名子　ジー、エム、フイシャー　山田千代子
エ、ピー、ウェスト　小此木松子　二宮貞子　サラ、エリス　イ、ウー、クレメント

地方在住委員
大阪　廣岡淺子
京都　佐伯小糸
京都　松田道子
京都　ミス、デントン
廣島　ミス、ゲーンス
岡山　上代淑子

日本基督教女子青年會總幹事　河井道子
同幹事　エ、ジー、マグドナルド
同幹事　アール、レーガン
東京基督教女子青年會總幹事　エム、エル、マシユウ
同幹事　ジー、アール、ロトホ
同特志幹事　エム、ベーク

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



神はわれらの避所また力なりなやめる時のいとちかき助なりさればたとひ地はかはり山はうみのもなかにうつる
とも我等は懼れじよしその水は鳴り轟きてさわぐとも何かあらん汝等しづまりて我の神たるを知れわれは諸の國
のうちに崇められ全地にあがめらるべし萬軍のエホバはわれらと偕なりヤコブの神はわれらの高きやぐらなり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子青年界　第十巻第一號（大正二年一月一日）

不朽の希望

河井道子

一歳去つて亦一歳が參りました、嗚呼大正元年は精神界に於て惰眠を貪りし我國民一般に懲戒の大小鐵鎚を加へて、覺醒を與へました。其打擊の疼痛に依りて愕然悔改反正せし者も小數では御座いません彼等の中には物質界や道德界のみが決して安心立命を與へ得るものでなきを悟り、精神生活を向上し、朧氣ながらも、偉大なる靈界の何物かに感觸せんとの希望を惹起して居ります。又一方基督者は神化せずして益々俗化し去らんとする今日に當りて、天來の懲治警戒を受けました事は意味のある事で、此際私共は醒悟て奮起しなくてはなりません。

諺に苦は樂の種子と申ますが、ヘブル詩人も又「淚と共に播く者は歡喜と共に獲らん、其人は種子を携へ淚を流して出で行けど、禾束をたづさへ喜びかへり來らん」と申しました、大正二年は淚を以て播かれし精神上の種子の發芽期と思ひますは無理でしようか。發芽新綠は希望の大標榜であります、私共の祈は此の良善の種子が芽生へする矢先に、暴風雪の難なく、日光雨露の順を得て漸く成長繁茂せんことであります、實に希望は人生の命であり、希望なくば勇氣も歡喜もなく、歡喜なくば生くとも死せるに同樣で御座います。

然ればとて希望々々と連呼唱導致ましたとて、其が漫然と來るものではありません、必らず生來すべ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

き根據があります、かの病床に呻吟する病人も、平癒の望があればこそ苦悶をも忍びます、學生が試驗の關門を潛りますも先方に希望と滿足があるからであります、或は勞働者がパンのために働き、自殺者が己が苦痛煩悶を免がれんために死し、學者が眞理の追究のため困苦を甘じ、義人が正義のため勇みて迫害を受くるなど、皆各自に各種の希望目的があるからであります、しかし神聖の希望には私なき歡喜と勇氣が伴なはねばなりません、是を以て慾望や野心と眞個の希望とに劃然した分別がつきます、其故に崇高ならざる望は勿論罪であり、所謂、虚榮とか墮落とかが之に伴行いたします。

一體個人の區々たる望を措きて、基督者の常に抱く可き共通の希望とは何を申すのでしょうか。我等が生れ來りしために幾分なりとも世を改善美化して此世を去らんと申より外に高大なる望はないと信じます。この目的のため如何にもして高尚なるもの、純潔なる者、最善のものを仰ぎ望む向上心が必要なのであり、善に向ひては堅忍不拔の決心が要求される次第であります、かくて正を正とし邪を邪とし、罪を恐れ、善と親しみ、神を愛し人の救を冀ふを以て終生の望となす樣になりますは自然で御座いましよう。

我女子青年會は至極微々たるもので、未だ乳臭を脱せざる赤子で御座いますが、成長發達の前途を控へて居ります、幾分なりとも個人のためにも社會の爲にも奉仕るものにせんと、委員會員共々に盡力して居ります、假令ば本會が東京に青年會寄宿舍を置くと申も、只に青年女子に寢食の便宜を與へんためのみでなく、兎角青年時代にあり勝なる我儘氣儘自負利己の弊害を矯正し、種々の誘惑より彼等を保護して共同一致の精神を發揮せしめ、吝なる心を高大にし敬虔の念に富しめんの希望で、此等の寄宿舍を建築したもので御座います、勿論此の望の實現さるゝは未だ遼遠でありませうが、必らず其時機が來るのを期待して居ります、又修養會でも、聖書研究會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

でも講演會でも女子倶樂部の設立でも「女子青年界」發行でも、同目的の上に着手されたので御座います、今若し此目的希望を宗教的に申せば「神を愛し、神の榮を顯はす」の句に含まれて居ります、神の神たる御榮が誰にも彼にも會得され、神の御聖意が個人の衷心に、己の周圍に、家庭に、教室と寄宿舍に、工場や商店に、會社に、議事堂に、何處如何なる場所にても保持され實現せらるゝを我等共通の大宿望に致さなくてはなりません、これは恰も空氣が地球全面を覆ひながら又一方には纖微なる毛細管にも通ひて命を保つ如く神の聖意をして大小凡てのものゝ生命とならしめる樣努力しなくてはなりません」。如斯希望の高きときは、我等の職務が如何に賤しきも不正ならざる限りは端然其職を樂しみ孜々として其責を果して、其處にも神の御意をならしめる事が出來ます、所謂汝の荷車を星に繋げとの求高思想を充分に味ひ得る身分に成るので御座います。

パウロは神の榮を望て欣喜としましたゆゑにかく申ました、「我等四方より患難を受くれども窮せず、詮方盡れども望を失はず、迫害らるれども棄られず、跌倒るれども亡びず、人を惑す者に似たれども眞實、人に知れざるに似たれども人に知られ、死にたる者に似たれども生けるもの、憂るに似たれども常に喜び、貧きに似たれども多の人を富まし、何も有たざるに似たれども凡の物を有てり」と、かゝる深遠雄大なる感想と實驗は普通の道德や修養で得らるゝものではありません、神てふ大なる靈に觸れざる限りは到底望まれぬものであります、

パウロは又「キリストに依る救の希望は靈魂の錨の如し」と斷言して居ります、讀者は常に西洋のカードによく錨や十字架が畫いてあるのを御覽になりましよふ、何を代表して居りますか、決して海軍の徽章でもなく只宗教の意味でもありません、錨は希望を、十字架は献身犧牲の服從を示してをりますことを御存知でしようか。

夫れ新年は朝の樣で外見上は昨日と何の變化もない樣ですが内部や衷心に於ては萬事改まつて居りま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

す、狂躁、失敗、失望、嘆息、汗臭、疲勞は昨日の黄昏のことにして、今朝は精神爽快にして勇氣希望の色、朝日と共に輝くではありませんか、新清なると朝の如しと申すが之で御座いましよう、昨年の失敗失望悲憂に引換て大正二年を光輝ある大望を以て歡迎いたし度う御座います。何卒御互に家庭に於て學校に於て寄宿舍、事務所に於て善き戰をなし、小事に正しく、大事に注目し、高きを慕ひ、同情を彌増し、時間も金錢も勞力も身に應じて善事の爲に喜びて捧げようではありませんか、讀者中には今年を以て幾多の星霜の功なりて卒業てふ希望を持たるゝ方もあらん、或は家庭の人とならるゝ方もあらん、又高等教育の志望を抱かるゝ方、海外に渡航さるゝ人或は精神修養事業發展の喜を持たるゝ方もあらん何れも至極結構でありますが、願ふ處は自身に對する望を、神の榮のあらはるゝ道筋に準備せられんことで御座います、決して失敗それ自身が恥辱でもなく罪でもなく、卑き賤き希望こそ罪惡なれとの金言を記憶されて尚一層と高きに進まれん事を祈り申上ます次第で御座います。

「偉業我等が前に横伏る
勇みて之にあたるべし
我等冠を得ずして倒るとも何かあらむ
主の聖意のならんには」

神の榮を望みて欣喜をなす
練達は希望を生じ希望は耻を來らせず
我等の救は希望によれり
未だ見ざるものを望まば忍びを之を待つべし
義しき者は七次仆るゝも亦起く
生くるも死るも基督のためなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

根據ある信仰

神學博士　高木壬太郎

此頃は世間でも宗教の必要と云ふことが段々分つて來たと見へて、先頃もかの三教會同などいつて内務大臣が三教の人々を集めた事もあるが、之は明治の歷史に珍らしい事であるけれども、しかし其れで何の宗教が善いかといふ事が分つた譯ではない。

或人は宗教は必要であるが何でも宗教でありさへすれば宜しいといふ、又た宗教は要らないといふ人もある、又た神道を興すべしといつた人もあつた、此の中には堂々たる博士達が新聞に雜誌に論述してあつたものもある、皆それ／＼の考を以て宗教論をやつて居るのであるが、私は特に基督教は日本國民に適した宗教であると思ふ。

宗教は何でもいゝのではない、世には釋迦でも孔子でもいゝではないかといふ人がある、しかし私はさう思はない、然らば何故キリストなしの國民ではいけないかといふ疑問が起る、私は此疑問に答へるために一二の例を擧げて見たい、理窟をいへば幾何でもある、佛教にも云ひ度き事はあると思ふ、けれども其れは略して只實際に於て基督を知つて居る人と基督を知らない人は、如何に異つて居るかを述べて見たいと思ふのである。

パウロは基督を知らない基督のない國は神の無い國であると云つた、之は實際の話で、私も基督がなければ神は無いと斷言するを憚らない、されば、佛教にも名こそ違へ、神はある、況して神道には八百萬の神があるではないかといふ人があるかも知れない、然し其は違ふのである、ユダヤでも基督以前にはエポバといふ神があつたが、其は基督の神とは違

つてユダヤ國人のみを愛して外國人は皆之を罰する神であつた、基督が來つて始めて眞の神が分るやうになつたのである、神を以て父なる神と敎へたのは基督が始めてゞあつた、しかも神は愛に充ちた生ける神である事を明にしたのであつた。

今夏、先帝陛下御不例といふことが全國に傳つた時に、誰も彼も、何か人間以上の或る能力があるといふことを思ふのは人情の常であつて、國民は何れも熱心に夫れ〳〵祈禱をした、或は神社佛閣に、或は二重橋側に平伏して祈つたことは、如何に臣民の赤誠の溢れて居るかを表するもので實に嬉しい事であつた、されど、之を宗敎上から見れば物足りなく考へられるのである、若し之れが基督を知つて居る者であれば、何も狼狽するには及ばない、又た何處で祈るべきかといふやうな事は分らない筈はないのである、若し之れが英國であつたならば彼のエドワード七世陛下の御不例の折の如く、國民は皆な靜に天に在す神に祈るのである、處が、斯くの如くレコードを破つた程の熱禱も其甲斐なく、遂に御崩御あらせられた、國民は悲痛恐懼に堪へない、そこであれ程に祈つたのに聽かれない到底駄目だと大に怒つて果は發狂して自殺をした一人の神主が淺草邊に在つたとの話である、由來日本では人にもよるであらうが、祈禱に就ての思想が幼稚で、祈る時には無病息災家内安全商賣繁昌といふやうな物質上のことが多い、其中には隨分慾張りもあれば矛盾もあつて、其間に狼狽の態度や非常識な行動も現はれて來る、日本には最初に神道があり、支那から儒敎が入り、佛敎が來り、又た基督敎も入つて來たが、其澤山ある過去の宗敎は多くは物質上の事を敎へて精神的方面を敎へることは餘程缺けて居つた。

肉身の親ほど其子を知るのはない、それと同じ樣に我々を能く知つて居らるるのは父なる天の神である、假令我が事失敗し我が業蹉跌することがあつても之は父の御旨であると思ふ程の神に對する信念があるならば、決して怨恨も悲觀も起る筈はない、基

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

督は十字架にかゝり給ふ前に、ゲッセマネの園に三度「我より此杯を取り給へ」と祈り給ふたけれども神は其祈を聽き給はなかつた、其時にも基督は神共に在ますと信じて凡てを神に委せて十字架の苦を受け給ふた、思ふに基督も矢張り人間と成られた以上は十字架にかゝる事はお厭であつたに相違ない、使徒パウロも三度其肉體の刺を去り給へと祈つたといふことであるが、しかし「神の惠汝に足れり」との信念と感謝をも持つて居つた、基督も亦た能く之れと同樣の信念を抱いて十字架の苦にも耐へ給ふたのである、あなた方は未だ分らないが、嫁いだ婦人が家庭に入つて大なる苦痛がある樣な場合にも基督を通して神を知つて居るものは少しも周章狼狽するやうなことはないのである。

それから次に申上げたいのは日本人の道德であるが、元來日本は道德の高い國であるかといへば之れが亦中々むづかしい問題である、王陽明は山中の賊を倒すは易いが心の敵を平げる事はむづかしいと嘆息した、孔子も同じ樣に感じた、パウロも噫我は艱めるものなるかなと云つて居る、此等は皆其意中を表白したので兎に角眞面目なものである、乃木將軍の如きも實に眞面目な人であるから終に古の武士道的に自殺された、前の三人は唯嘆息したのみであるが乃木將軍は終に自殺された、されど、パウロは斯く自己を顧みて嘆息した事は同じでも更らに神の恩惠に感謝するといつて喜悦の情に充ちて居る。

そして不眞面目な人はといふと、之は恰度基督時代のパリサイ人の如きものであつて結局僞善者である、眞面目な人は顧みて心の悶を感じ進んで神の恩に感ずる、若し夫れ不眞面目な人に至つては世に衒ふ僞善者となる、之れが今の世間の通常事である。

それから終にもう一つお話したい事は人に使はれる人と人を使ふことに就てゞあるが、これも亦基督を知る人と知らぬ人とによつて大に異つて居るのである、私が前年歐羅巴に行つた時埃及に下つて三日程滯在した後パレスタインに趣かんと思ひ立つたが

旅行劵が無い、日本の公使館を探したが其れも無い、仕方がないから英國の大使館に行つた、處が其日は休日で門が締つて居つたが最早船が出るのに時間も無いので、無理とは思つたが小使に意を通して大使に面會して其理由を話すと大使は快く承諾して直に認めて呉れた、此時私は實に感謝したのである、若し之れが日本の公使館であつたならばどうでせう、私は英國大使館であつた事を却て仕合に思つた、英國や米國などの基督敎國の政府は人民を使ふのでなくて人民に使はれるのである、日本はそれと反對で人民は使ふべきものに考へ上から下まで人を使ふ氣で叱り飛ばして居る、例へば巡査の如きも交番の前に立つて誰れか惡るい事はしないか、規則違反は無いか、あれば叱らうと待つて居る、道を聞ても中々横柄である、諸官省の門番までが實に威張つて居る、彼の國の大臣以下皆な他人に使はれる精神で居るのとは雲泥の相違である、之は何故かといへば卽ち基督に依りてゝある。

先頃私の同級生であつた友人から一冊の著書を貰つたが、此人はまだ四十歳前であるが中々頭の明晰な學者であつて、又た大變に情の厚い人である、私は二度計り一所に暮したが、旅行をすると其到る所の停車場に乘降する時などに必ず老人なり子供なりを助けて居る、其が何時も知らない人を助けて居る、則ち彼は未知の人にも使はれて居たのである、惜しいことに此人は此の八月に永眠した。

米國某大學總長が人の靴を磨いたといふことを或る著書で見たが、豪い人が賤しい仕事を助けてするといふ事は眞に貴いことである、神は人の爲に使はれて居り給ふので賤しき者を助けて豪い者となさるのである、基督は三十年間大工の職をなし、モーゼは埃及で四十年間羊を牧つた、或るオックスフォルト大學卒業生は卒業後名譽ある高き位地は之を人に與へ自分は難かしき賤しき位地を與へ給へと祈つて終に印度傳道に出掛けて年未だ若くして死んだ、ダミエンといふ人は自ら進んで癩病島に傳道して終に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

病に感染して死した、此のやうな事を凡ての人に望むことは無理であるけれども、人を使ふのでなくして人に使はれる基督の精神を知れる人々の行爲は高尚なもので其精神を知れる人々によつて成れる國家は實に立派なものといはねばならぬ。

米國の富豪カーネギーの事は御存じでせうが、之に比べて日本の富豪は如何であるか、或る人が麻布の某富豪を訪ふて中學校を設立する資金の助力を求めた所が其富豪は「宅には中學校に出る子供は無い」といつて寄附金を斷つたさうだ、人に使はれるといふ事は基督を知らない人には到底出來ない業である、殊に家庭などに於ては妻も夫も子供も皆な此精神を以て互に相助けたならば、如何に立派な家庭が出來るかと思はれる。

基督を知る事は實に大切なことである、私は切にお勸めする、皆さんが熱心に聖書を讀んで基督を發見するやうに、ゼームスコールといふ人が加奈太に於て最も有益なコーロホルムを發見した時に、或人が其大成功を賞めたら、彼は「此の發見よりも基督を發見した方が最大發見であると云つたさうだが實に其通りである。

（女子英學塾に於ける講話の大意を手帖に探りて摘錄す　河口正子記）

神の國

エー、シー、マグドナルド

本篇は昨年十一月末仙臺市に於て開かられたる女子青年會修養會の折に日本基督教女子青年會本部より出張されたる總幹事ミス、エ、シ、マグドナルドが述べられたる講演の大要なり

ガルバリヂーといふ人は十九世紀時代に於ける伊太利の有名なる愛國者で、其國民の自由を得るために同志の人々を糾合して、伊太利の自由といふ事を標榜して強く戰ひましたが、其同志の人々を集めまして戰場に出掛けます前に、斯ういふ事を申ました、「私はあなた方に對して給金も兵粮も兵營も一として與へることは出來ません、只空腹と飢餲と休なしの前進を與へるばかりであります、しかし其れでも我々は終に我々の愛する伊太利に自由を與へることが出來ると信ずる」と言つたのであります、そして、カルバリヂーは其同志に向つて非常な艱難と苦痛を與へましたけれども、其最終の賜のためには其同志の人々は一齊に自己の勝手を忘れて其艱苦を忍んで所謂「伊太利の自由」の爲に死ぬ迄も信實に能く戰ひましたので御座いました、若し、ガルバリヂーが其

同志の人々に色々の物品を與へるとか種々の利益を以て約束を致しましたならば、それほどの信實な人々が奮起してガルバリヂーの味方にはなりませんのであつたと思ひます、けれどもガルバリヂーと共に伊太利の自由のために奮闘しました人々は、皆伊太利の自由といふ事の外には何にも構はないで、如何なる艱難にも辟易しないで健闘いたしました結果、終に其目的を達する事が出來ましたのであります。

考へて見ますと、私共は矢張り伊太利の愛國者が最終の賜を望みました様に、此世の中の一番大切な獲物を得やうと努力して居るのではありませんか、之を得る迄には言ふ迄もなく私共の衷に伊太利人の熱誠なる精神が必要であります、即ち、終りに至るまで其大切な物を得る迄如何なる困難に際會するも屈撓せないで奮進して止まない元氣を以て働く筈であると思ふので御座います、そして　私共に取つて一番大切なものは何でありますかといへば、其はキリストの仰つた言葉の中にもあります通り生命で御座います、之は私が説明するまでもなく皆さんにも能くお分りになることであると存じます。

偖この生命といふものは何でありますか、其言葉の意味は何で御座いますかといふ事を考へて見ますと聖書に書いてあるキリストの御言葉を讀んで見て始めて其深い意味を知ることが出來るやうになるのであります、私共は唯だ生命と申ますと其中には色々の意味がありますが、先づ普通の意味から言へば生命といふものは私共の日々の生活であると思ひます、之は勿論大切なことであるに相違ありませんが、キリストの御考から見ると生命といふものは日々の生活よりも、もつと深い意義があるといふことを能く敎へられましたので御座います、キリストは此世に居らつしやいました時分に、何時も外の事よりも此の生命といふ言葉を御使ひになりました事が多う御座いました、しかし其意味は何時でも日々の生活の意味で御使ひになつたのでは御座りませんでした、キリストの立場から見ると、日々の生活も大變に大切なものであると御考になりましたことは言ふまでもない事でありますけれども、其は本當の生命では無いといふことを明に御敎へになりましたのであります、キリストは甞て死といふことに就ても度々お話になりましたが、それも矢張り日々の生活の終といふ意味には敎へられませんでした、却て日々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の生活を續けて居る人々の中にでも死んで仕舞ふことがあり、又た、假令、日々日々の生活からは死んだものでも依然として眞の生命を有つものもあるといふ事を話されましたので御座います、例へば約翰傳十一章二十四節以下の記事を讀んで見ますと、イエスが或る友達の家にいらつしやいまして其家の息子が死亡して其姉妹が非常に愁傷に沈んで居るのを見て之を慰めて「我は復生なり生命なり我を信ずるものは死ぬるとも生くべし、凡て生て我を信ずる者は永遠も死ぬることなし」と仰せられましたと書いて御座います、この御言葉から考へますとイエスの生命の意味は決して普通の日々の生活といふことではありませんといふことが明であると思ひます。

それで生命といふものは私共人間に取ては此上もない賜でありまして、人間はすべて此の生命を中心として立ち、又た、此の生命のために戰つて居るものであることは歷史上からでも各自の經驗上からでも實際の事實と認めることが出來るのでありまして單に普通の意味から見ましても、もつと深い意味から考へましても必ず大切なものであるに相違ないのであります、其と同じ樣にキリストも生命は此世の中の何物に比較いたしましても比較するものは無い程一番尊重すべきものであると思はれましたのであります、さう致しますならば、キリストの仰しやいました生命の本義は何で御座いませうか、キリストが此世をお去りになる前の晩に、弟子達と共に或る靜な所に行つて其折に色々の大切なることに就て御話になりましたが、其時に此の生命の本當の意義に就ても說明されましたので御座います、其後にキリストの弟子のヨハネが約翰傳を著しました時に其時のキリストの御話を思出して其中に書きましたのが、今日猶ほ私共の手に殘つて居ります、それは約翰傳十七章の三節にある「永生とは唯獨の神なる爾と其遣はしゝイエス、キリストを知る是なり」といふので御座います、此言葉の意味を考へて生命の意義を探つて見ますと、キリストの生涯の秘密も能く分り、其に就てのキリストの困難や苦心もまたキリストの慰藉も、其同情なども、すべて能く分るやうになるので御座います、キリストは人間といふものは生きて居りましても苦んで居るものであり、又た罪を犯し、自然とそれに伴ふ種々樣々の困難な結果が起りますから其ために此人間は本當の生命を失

ふて居ると御考になりましたので御座います、さうですから、キリストが此世に居らつしやいました時に何時でも人間に取つては此生命といふものは聖書に書いてあるやうに「獨の眞の神と其神から遣はされたイエス、キリストを知る」によつて得られるといふ事を御敎へになりましたので御座います、大抵の人は私共に取つて一番實際のものは物質的のものであると思ひますが、イエスに取つては獨一の眞神は則ちすべてのものであつて其外のものは何の値打もないものであるト御考なされましたのであります、キリストが私共人間が獨の眞神を知る事が何よりも一番大切な事であると仰しやいましたのも亦此考からでありましたので御座います、そして其神樣と私共との間に離れない關係がありますならば、私共は何時も其神樣から生命を受ける事が出來るのでありまして、其は恰度キリストが御譬になりました葡萄の幹と枝との關係で約翰傳十五章の四節と五節に「爾曹我にち、居れ、さらば我亦爾曹に居らん、枝若し葡萄の樹に連らざれば自ら實を結ぶこと能はず、爾曹も我に連らざれば亦此の如くならん、我は葡萄樹、なんぢらは其枝なり人若し我に居り、我亦彼に居らば多くの實を結ぶべし、蓋は行し爾曹我を離るゝ時は何事をも行し能はざれば也」とある通りに、私共は眞神に連りませんならば必ず生命を受ける事は出來ませんのであります。(未完)

幸福の道

二宮貞子

「新年」と云へば、誰しも新らしい希望を抱くものであります。然し或場合には、一種云ふべからざる悲哀の感に打たれ、自からに對して不滿の念を抱く事もあります。それは私共の希望が、いつまでも空想としてのみ存在し、自からの行が、其理想と一致してゐない事を認むるに原因することゝ思ひます。

私は十四五歲の頃、日記樣のものに、「お正月の決心」として、澤山箇條書をつくり、其一年間にそれを實行する樣にと云ふ事を始めた事を記憶して居ります。然かしさう云ふ事を、二三年も經驗しないうちに、自分の弱くして、決心通り行ふ事の出來ない事を悟り、又年の始めに、「此一年間にはこれ丈の事をと思つた半分も成し遂げられないものである」と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

云ふ事を知らなければならない樣になりました。小供の時代に、早く來ればと思つたお正月も、此節は「もう二三ヶ月待つてもらへれば」と思ふ樣になり、新年の來る度に、過ぐる一年間に於て、自からの足らざりしことを思ひ返へしては失望し、遂には自分を恨む樣な事も御座います。時にはいろ／＼辯解もして見ます。「學生時代には時を規則正しく使つたから」とか、「自分の置かれている境遇が許さない」とか、「日本の社會が一體に不規律で、時をむだに使はせる樣になつて居る」とか云つて見ます、一理ある樣でありますけれども、つまりは自分の過であります。私共に與へられたる境遇に自からを調和せしむる事も私共の義務でありませう。それで私共は、「時がないからとか、「もう少し暇のある時に」とか云ひながら日々を送つて居ては決して暇な時も來なければ、充分時があると云ふ場合も參りますまい。

殊に精神上の事に於てはさうであります。今日神のため、人のためにつくすべき機會を與へられながら、今日は少し不都合であるからとか或は時がないから又明日になど丶云ふ人は、明日も其次の日も同じ事を考へながら、何ら神樣のためにつくす事なくして一生涯を終る樣な事になるでありませう。かくして一千の金を預つた惡しき僕べの樣に神樣の國から退けらる丶事となるのであります。私共は現在の義務を怠たりながら、將來に空なる望を置く事がしば／＼であります。既に與へられたる機會を利用せずしてより大いなるものを望み易いものであります。もし今日與へらる丶少さな機會を利用する事が出來なければ明日與へらる丶（もし與へらる丶としても）大きな機會は勿論その儘に過ぎ行くでありませう。私共は如何に無能でも各果すべき義務と滿すべき場所を與へられて居ります。私共が怠たるならば其義務は永遠に果されずしてすむのであります。

理想の私共にとつて最も大切なるものである事は申すまでもない事であります。又將來に對する希望は私共に大いなる勇氣と力とを與ふるものであります。けれども理想と實行の一致せざることと又希望と現實の常に相遠ざかつていることを認むることほど私共に苦痛と不滿を與ふるものはありません。從つて、私共に眞の喜と滿足を與ふるものは私共の有する主義と言行の完全なる調和であります。私共のキリストに見出す平和と喜は此調和に基づくことと丶私

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は思ふのであります。世の人々は種々樣々の希望と理想を抱き異なる目的と主義を有して各々人生を渡つておりますけれども、結局は「幸福」なるものを求めておるのであります。或者はそれを富によりて得んとし、或者は智識と學問、或者は名譽及び位置、又婦人としては、或は善き家庭をつくる事によりて、或は勝れたる人の母となることによりて、と云ふ風に種々ありませう。キリストにむかつて或女が、「なんぢを孕みし腹となんぢの吮し乳は福なり」、と叫びし時に、キリストは、「然りされど神の道を知りてそれを守るもの丶福には若ず」、と答へられました。キリストは神の道を知りて、これを守ることを以て、人生最大の幸福とせられました。私共既に神を知ると自から任ずるところの者は神の道を知る事にのみ勉めてこれを守り。理想を高め希望を大きくし、主義をかたむる事にのみ心を用ひて、是等の實現に力をつくす事を怠たつてはなりません。

此最も清い幸福を得る道は神を知る凡ての人に一樣に開かれて居ります。富も要らなければ社會の位置も關係致しません。然るにそれを得るためには、私共大いに勤むるところがなくてはなりません。富を得る事は比較的やさしく、學者たらんも猶此最大幸福を得るよりはかへつて容易いと私は思ひます。私共通常の人間が此幸福を得るに至るまでには、非常なる修養と多大の努力を要することであります。私共の所謂「救」なるものは此幸福を意味するものであつて、人は神に從はんと決心したる其時に、或は洗禮を受けた其瞬間に全く救はる丶ものとは思はれません。それはたゞ救の道に入ることを許されたと云ふまでの事であつて、其後何ら自から勤むるところもなくして、たゞキリストの愛によつてのみ救はる丶と信じ、己が慾を恣にしあらゆる罪を犯しながら神の深き慈悲によりて永遠の亡びを免かる丶事を期するわけには參りますまゐ。勿論人間は決して己れの力によりてのみ救を得る事は出來ません。パウロは先きにユダヤ教の法律の智識と、それを完全に實行することによりて、救を得ようと致しました。然かしキリストを知るに至つて今までの努力の全く無益なりし事又其不可能なる事を悟る樣になり、全く遜りて凡てをキリストに御任せし、キリストによれる信仰によりて立つ樣になりました私共も神の慈悲と、キリストの愛に勵まされつ丶此最も高尚なる福を得んために努力致したいと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

寡婦の兒

（亡友の遺せる夫人に與ふる書）

小鹽高恒

光陰は實に矢の如く哀しき出來事に泣き候てより早くも三ケ月を經過致候、秋の夜長ふして夢破れ易く更け行くにつれて逝りにし友の跡をしのび端なく遺れる薄命の人を憶ひて斷腸堪へ難き事屢有之候ひき、況んや當の御身が思ひ出多き彼の書齋に籠り紅涙潜々袂を絞り給ふは素より然るべき事と推察同情罷在候、去り乍ら亡き人は最早歸り來らず候、一男一女を抱いて今は空しく途方に暮れ給ふべき時にあらず、白熱の試煉は終に通過せざるべからず、起つて事後の經營に取り掛り相成るべき事と存候、差當り幼き御令息と御令孃とを如何にして育て上げんかと云ふ事が先決問題なるべく、其によりて御身の進退事業を定むる必要有之、不取敢聊か氣附きたる所を申上げ然る後實際問題の講究に移り度候。

遺兒教育の點に關して天は實に重大なる責任を負はせたるものと愚考仕候、大凡幼より母の手一つに育てられたる兒は多く並外れにて其行くべき途兩極あるのみに御座候、則ち下りて罪人となるか、上りて偉人となるかに有之候、犯罪統計の示す所によれば父なき子、即ち母のみによりて不完全なる放埒なる教育を受けし我儘者が犯罪の階級に入る事頗る多數に有之、寡婦の兒は一面甚しく暗黑なるものに御座候、若し其母にして薄志弱行、不注意、無責任、不信仰、不人情、輕薄にして浮華なる人に候はんか、其子の將來は大抵墮落劣敗の外無之悚然として怖るべきものに候、遺兒をして先考の墓碑に泥を塗らしむる其罪の過半は未亡人に在りといふも失當に無御座候、されど、そは裏の半面に御座候、目を擧げて表の一面を御覽候へ、古來歷史の潮流に參與して一波一浪を揚げたらん程の偉人物の中に、其傳記の冒頭に「幼にして父を喪ひ」と誌さるゝ寡婦の兒の多き事は頗る人意を强ふするものに御座候、天もと至

公。貧しき寡婦の手に育てられて辛酸備さに嘗め盡したる子女が如何に多く強健尊貴一代を動かし萬世に仰がるゝ人物となりたるかは深く御注意を要する點に御座候、小生は時々楠正成が若し長く生きてあらんには其子正行は或は平凡に了りしにあらざるかと思ふ事有之候、或は英雄、或は聖人、或は豪商或は侠漢、苟も單調を破りて其行動に詩趣を帶ぶるもの、大率父なき子にして中江藤樹の如き、アブラハム、リンコルンの如き、オーゴスチンの如き、孟軻の如き、何れか之れ敬虔にして貞操、凛烈にして温愛、氣慨と慈悲とに滿ちたる寡婦なる母の感化によりて、斯くの如き人となりしものにあらざるべき、坂田金時と山姥の物語は今に至る迄日本人の血管を鼓動致候、現に小生等の知れる人々の中にも此の如き女傑に育てられて立派なる人となれるものあるは熟知し給ふ所に候はずや。

若し其母なる人にして神に仕へて忠、子を思ふこと誠ならば、神は多くの場合に於て此かる寡婦の兒の上に特別の祝福を垂るゝ如く相見へ申候、心寂しき母は其子の前に一人にて兩親を兼ぬべく決心し、夫に事ふるものを以て子に事へ、父たる責任と威嚴とを併せて之に臨む、教育陶冶の責任、其全部を一身に引受け、全靈全心唯だ其子の上にのみ注ぎ申候、朝に捧げらるゝ熱き祈は「此兒善良なる人となれ」に御座候、夕に唱へらるゝ清き祈は「健全剛邁に生ひ立たしめ給へ」に御座候。一心不亂に張りつめたる精神は須臾も弛む時なく、明けても暮れても其子の美はしき成人をのみ望み申候、其子の怠慢、過失、増長、放逸は注意深き母は一々之を等閑に附する能はず候、此は唯吾のみの兒也、吾は唯一人の親也、此子身を立てずんば吾申譯なしと小さき胸裡に斷へず慰るむ所、勵む所、喜ぶ所、乃至憂ふる所、唯此子の發育模樣の如何のみにて有之候、而して此の如き家は多く敬虔なる信神の念熾にして、父なき子は神を父と呼び、夫なき妻は神を唯一の保護者となし謙遜にして柔和なる心情を以て悠々たる攝理の手に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自家の命運を一任する事と知り申候。

今少しく此の如き母に育てらるゝ子女が、如何に價値ある發育を遂ぐるかを想像いたし度候、先づ彼等は夙につましく育てられ、爲に驕奢と虚榮との誘惑より救はれ申候。學校に於て彼等は幾度も繕はれたる衣服を纏ひ、晴れの日には洗ひ張りたる衣服を以て禮服といたし申候、他の兒童が相互に其衣帽の美を競ひ世風を追ふて走る間に、彼等は專心一意學業に耽り申候。或は爪彈きせられ、或は侮辱せられ、或は嫉妬せらるゝ間に、彼等は憤慨と獨立心と抗顔と鞏固なる意志を養成いたし候、人の價値は其人と爲りに存するものにして、高尚なる品性と眞正の安心とは、萬古渝らざる宇宙の主宰者より來るとの確信を得申候、而して此間に處して、紆餘曲折反覆便佞なる人情の機微を味ひ如何に之を壓倒すべきか、如何に之を使役すべきかの途をも著々會得いたし候、彼等の抱く處唯是向上心、唯是奮發心、母の勞に報ひ、亡き父の靈を喜ばす事と、長じて同輩を見返さんとの願望に滿たされて、目を外に觸れず勤勉するが故に、富める兒童が流行の焼點となる間に、彼等は成績優等の模範となり申候、かくてよ 艱みに耐へ恥を忍び、意志は煉られ報恩の情に熱く、理想は輝き、品性は高られ、實力は深く蓄へられ申候。

既にして學成り、愈々世に出づべき時となれば、老ひたる母と共に燈下に一夜を明し、相抱ひて通り來りし幾多の難關を昔話とし、母は亡き父の墓前に詣でゝ乃父の名を辱かしめざるを誓ひ、今一度共に跪き、破れたる机上に聖經を誦して心ゆくばかり過ぎにし神の惠を謝し行く手の導きを祈る事に候、其音切々、其情綿々。かくて孤筇自家の運命を開拓するに方りてや、縱横力戰、長く蘊みたる才幹を發揮し剛膽鐵腸、遂によく奏功し、曩に嘲笑せる輕佻儕輩をして呆然其脚下に倒れしむるに至り申く候。

また此の如き兒は、幼より母の勞苦を思ひやり其恩愛に感ずる事殊に深く、父と母とに事ふる處を以て一に母に事へ母の勞を助けんとの健氣なる心は、

早く既に芽を萠し機會あれば顯れ出でん事を待つものに御座候、而して此心また必ず一片の俠氣となり屢々他の弱者を扶けて强漢に當るの意氣となり、薄命者に濺ぐ同情の涙となり從て天の助と共に地上意外の邊に其味方を作り居ること往々有之候。

此の如きは畢竟母なる人の心得次第によるものに御座候、近著のアワー、ペーパー誌上に一美談を掲げ居り申候、米國西部の一農夫死して妻と二子とを遺し申候、妻は二兒を携へて東部ボストンに移り洗濯婦となりて自ら營み、二子を夫れ／＼學校に入れて勉學せしめ、子女年頃に及んで母の職業を賤しみ恥づるが如き空しき名譽心を打破せんが爲に、故ら學校に出でゝ己が洗濯婦なることを吹聽し貧賤なる勞働自活の却て貴きことを覺悟せしめ、忍耐、克己、質素、制慾、百難を排したる末、遂に男子をしてハーバード大學を卒業して辯護士とならしめ、女子は女學校を卒業して良家に嫁せしむるに至りたる、苦心談のくさ／＼、一讀大に感動仕候、但し如此實例は我國にては餘り珍らしきものには無之と存候。

さらば今、御身は二筋途の岐路に立ち給ふなり、安逸と無責任、其途は濶くして下へ下へと暗に向ひ申候、克己と獻身、其途は窄くして上へ上へとあかるく開き申候、俯して朽ち果つべき花とならんか仰ひで榮光ある果を培養せんか、亡き友人のかたみにして其血肉を裂き分ちたる幼兒二人の將來の運命は一にかゝりて御身の雙肩に倚り申候。御身が斷乎として取らるべき處、素より明々白々に御座候はず乎亡き友人は德性品格に於て、小生が平素最も欽仰せる君子人に有之候ひき、連れ添ふてふさはしかりし御身は、今こそ隱し給へる光を磨き給ふべき時と相成申候。奮然蹶起し給へ、上に大能の御手あり下に友輩の同情ありて微力を盡すべく候。

白駒かけりて年正に新ならんとす、過去をして過去を葬らしめ希望を新にし覺悟を大にし毅然として將來の幕を開き給へ、時や冬、木枯しの風横さまに武藏野に吹き荒れて、芙蓉峯頭白扇高く凍るを見る天候益々冱寒に向ふの砌、願はくば隙間洩る風をして亡き友人の遺兒を襲しむる勿れ、云ふ迄もなく御身は最も大切なる身偏に御自愛を祈り候。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

修養雜話

白井胤祿

▲第一の稽古

駿臺雜話に武運の稽古と云ふ條がある。『武藝と武運いづれが重き事と思ひ給へる。翁(室鳩巣翁)は武藝よりは武運を重き事とおもひ侍る。其故は、いかに武藝に達したる人なりとも、武運つきなば何の詮かあるべき。長湫の合戰に、森武藏守は打物取て鬼武藏といはれたれども、かけ出るとひとしく銃丸に中りて卽時に果てぬれば、武藝も武勇も用ゆべきやうなく侍る。然れば武運ありての武藝ならずや。各武藝の稽古あらば、先武運の稽古し給へかし。………運はいづくより出る事にて侍る。天より出るにあらずや。されば世話にも運は天にありと申候へ。とかく運をば天に禱るより外はなかるべし。天の心に叶はんとならば、天の好める事は何事ぞ、惡める事は何事ぞと尋ぬべし』。化物主義の旺んな今の社會に於ても、此の邊の注意は甚だ肝要である。今日の敎育は兎角藝の敎育に偏し、其の根抵の敎育、近頃の言で云へば精神生活の稽古が疎忽にされ易い。生命あつての物種と云ふ諺もあるが、此の精神生命を養ひ、之を適當に發達せしむることが百事の本である。之が出來て居らねば、如何に藝に達しても役に立たぬ。而して之を養ひ、之を生長せしむるは、神の生命に觸れ、其の御心に副ふの外はない。

▲まこと

基督は我は途なり、眞なり、生命なりと云はれた。神の眞理は彼に於て顯はれ、人の誠心も彼に於て顯はれて居る。基督敎は神と人とがア、メン(眞實に)と云ひ合ふ敎である。基督敎は神を眞として、之に身も心も打ち任せ心一杯を盡すものである。まことと云ふ字を支那の文字で顯はすには、二十五通りあるさうだ。其の字義を尋ねると基督敎の生活が說明されるやうに思はれる。『誠』心が純一にして僞りの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ない意味である。『堪』、心の中に違はぬと思ふことである。『諒』、約せし事を堅く守る言語に僞なきことである。『讜』、云ふ事理に當り、善言、直言することである。『訦』、云ふことの少しもたがはぬことにて、信と音義ともに同じ。『誠』、心柔ぎ相和して雜りなき意である。『忠』、或人の爲めに心一杯を盡すとである。『悃』、志純一にして、心中につゝみ保つことである。『情』、心根にちがはぬところあること。『信』、命を守り、差はず、疑はざるをいふ。『實』、實入りの確かなる姿にて、虛のなきことである。『寔』、しつとりと落ちつきのあること。『孚』、人の普くまことゝすること。『眞』、僞りなきこと。『亮』、諒と同じい義である。『亶』、斯うより外にはならぬといふこと。『質』、正しく相當するの謂にて、實なることである。『允』、物のしつとりと落ちつきたる姿。『展』、心を盡して張り延すこと。『良』、何處まで違はぬこと。『固』、堅く守ること。『衷』、僞りなきこと。『苟』、誠に同じ。『欵』、懇ろに親切なること。『洵』、繰返して見直しても異はぬことである。中庸にも誠は天の道なり、之を誠にするは人の道なり、誠は勉めずして中り思はずして得、從容として道に中るは聖人なり。之を誠にする者は善を擇んで固く之を執る者なりとある。卽ち精神生命の充實した姿である。

▲熱●心●

或人の句に『名を聞いてまた見直すや草の花』と云ふがある。洵に面白い句である。何心なく見過せば平凡な草の花であつても、其の名を聞いて見直すときは新しい趣きを生ずるものである。すべて物事は注意して熱心に見直し考へ直すことが大切である。然うすれば今まで氣の付かなかつた點に、深い妙味を發見することが少なくない。テニソンは石垣の間に咲いて居る草花を取つて、其の花も根も熟く觀察せよ、然らば神と人との秘義をも知ることが出來ると歌つた。信仰を養ふ是れは道を修めるものに取りて甚だ大切である。狩野元信がまた名の題はれない時分に、大和の或る寺に居て、襖の板戶に松を畫い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。其の後大和を去つて東の方に旅行し、途中箱根の峠にて、一本の松が谷に臨んで居るのを見て、其の枝振りの面白さに暫時見とれて居た。其のうちに不圖大和で畫いた松の事を思ひ出し、今見たあの枝をかき添へたならば、一段と見優りがするであらうと思へば、矢も盾も堪らず、直ちに引き返して大和に戻つて來た。之を見た寺僧の怪んだのも無理はない。何か大事な忘れ物でもせられたかと尋ねると、元信は事の始末を物語り、板戸に向つて一枝を書き添へた。果して其の畫は之が爲めに殊の外見事なものになつた。之を見て大いに滿足し、僧が逗留を勸めるのも聞かず立ち去つたと云ふ話がある。畫道に熱心な元信のことであるから是れ位のことは遣つたであらう。道を學ぶにしても何事をするにしても、此のやうな心懸けが肝要だ。幾度も見直し、考へ直し滿足するに至るまで推敲すれば、何時となく堂に入るやうになる。推敲で思ひ出すのは、其の熟語の由來である。唐の詩人賈島が『僧敲月下門』といふ句を得る前に、僧は推すとせんか、僧は敲くとせんかと、馬上ながら其の手眞似をなしつゝ考へて居つた。かくて覺わず時の京兆尹韓愈の行列を衝き、衞士のために引致せられ、問はれて其の由を告げたところが、韓愈も其の道に達した人であつたから、暫らく沈吟して敲の字可ならんと云つたといふ故事がある。勝海舟は寢學問と云ふことを人に勸めたさうである。寢學問とは日々遣つた事を夜床に就いてから思ひ直すことである。我々の弊は餘り事を粗末にし、丁寧に再三之を見返して、手落ちや、見落しのないやうにすることが足りないことである。是れが進歩を妨げる大いなる邪魔物である。

▲努●力●

人は思ひ切つて精一杯の力を出すと、存外大きな事を爲し得るものである。背水の陣を布くと云ふが背後には退却することの出來ぬ場所に陣取つて死力を盡してかゝるときは、天下に敵なきものがある。英國の小説家チャレス、ヂッチンスは『余が生涯に於

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て爲すべく試みたことは、何事でも全心を傾けて良く之を爲し了すべく試みた。自分を献げる時には全身を献げた。何事でも全身全靈を以て當るべき事に對して片手しか出さぬやうなことをせぬ。何事であつても自分の仕事を決して輕視してはならぬ』と云ふ精神で事に當つたさうである。是れが彼の大いなる成功の秘訣であつた。基督教は心を盡し精神を盡し力を盡して神を愛し、又己れの如く隣りを愛することを生活の理想として居るものである。即ち事に當るに全力を以てするものである。然し彼等は只自ら奮發して熱心に努力すると云ふばかりではない。彼等は先づ神の限りなき恩寵を蒙つて居ることを悟り、之に感泣して大いに志を勵まし、其の熱心を燃さるゝのである。神の恩寵の潮に乘じて渾身の力を注ぐに至るのである。神の愛に觸れて、眠つて居た心が覺まされ、其の力が引き出される。生命は生命を傳へ、愛は愛を燃やす。神の精神生命に觸れて、始めて人の精神生命は充實し成長する。

聖書研究

基督と人生（二）

柏井園

人生の理想

信仰なく理想なき人生の現狀を嘆かれたる耶蘇は人生の理想につきて如何に敎へ給ひしか。

耶蘇はたゞ遠き事にのみ目を着けて其の日其の日の生活を輕んずることに與せず。『明日の事を思ひ煩ふ勿れ』と云ひ又『一日の苦勞は一日にて足れり』と敎へたり（馬太六〇三十七）神の保護に身を托しあまりに取り越し苦勞をせず、滿足して日々の生活の中に限りなき味を感じつゝ世を渡る。これ耶蘇の生活にして基督者の生活に存する安住滿足の心こゝより生ず。余の親しき友にして聖書のこの處の意味深く心に徹底して生活の心持全く一變し、落ち着きて着々進步し得る人となりし人あり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さればとて耶蘇は遠き慮なく大なる計畫をして悠々世に處すべしと云ふ主意に非ず。彼は敎へて曰くなんぢら誰か城を築かんに先づ坐して其の費この事の竣るまでに足るや否やを計らざらんや恐くは基を置て之を成し能はず見る者みな嘲笑ふて此れは築きかけて成し遂げざりしといはん又王出でゝ他の王と戰はんに先づ坐して此の一萬人をして彼が二萬人に敵すべきや否やを籌らざらんや、もし然ずば敵なほへだゝれる時に使を遣して和睦を求むべし(路加十四〇二十八―三十二)

此の敎のうちに現れたる二三の事を云へば、第一には人生には根本的の計畫あるべきことなり第二には其の計畫は適用して實効あるべきことなり、計畫にして薄弱ならば、城を築きかけて成らざるが如く兵を出して勝算なきが如く、見苦しき始末となりて人の嘲りを招ぐべし。第三には尋常一樣の事にては行かざることなり。何となれば精神生活の戰は一にて十に當る能はずとも少くとも我が一萬人を以て彼が二萬人に敵する戰なればなり。耶蘇は斯く敎へしのみならず、彼自身の生涯に於て之を實際になしたまへり。其の事業に着手するに先ち野に退きて四十日四十夜の苦戰を經たまひぬ。先づ根底に於て苦しみたればこそ其の餘は概して自由且つ安靜にして小き事に齷齪たらざりしなれ。世俗の生活は之に反す。根抵につきては漫然苦慮する所なくして却て苟且の事に悶へ苦しむこと多し。

然らば根本的の理想は何處に有するや。曰く神に在り。『一人の外に善きものはなし卽ち神なり』(馬太十九〇十七)。これ完全なる善は神の性質にして一切の善皆な神より出づると云へるなり。人生の理想は神の善なる所に原かざるべからず。

耶蘇はペテロを叱責して『汝は神の事を思はず反つて人の事を思へり』(馬可八〇三十三)と云へり。これペテロが基督者たる見地に立たず、世間並の考へより耶蘇の進んで救の御業の爲に苦みを受け死をも辭せざらんとする決心を妨んとせるを責め給ひし言なり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

耶蘇は今日の我等の狀態を見て亦『汝は神の事を思はず反て人の事を思ふ』と云ひ給はざるや。惡しき事を爲さず善き事をなすにも、義しき天父に嘉せらるゝことを根本とせずして、人の思はく、世間の體面に迫られて斯くするに非るか。人生の事を考ふるにも基督者の鮮明なる意識より發せず、世間の人と同じき平凡なる見地に立つことならざるか。

耶蘇はゲッセマネに於て血の汗を流しつゝ『されど我が欲ふ所を成さんとするに非ず爾の欲ふ所に任せ給へ』と祈りたまへり。(馬可十四〇三十六)これはひとりこの時の祈なるのみならず。耶蘇の御一生を通じて祈り勉め、又人に敎へ給ひし所盡くこの精神を以て一貫せり。そが爲には激烈なる靈的戰爭もありたれども、耶蘇に取りては苦しき事、面白からぬ事にはあらざりき。『我を遣はしゝ者の旨に隨ひ其の業を成し畢るこれ我が糧なり』(ヨハネ四〇三十五)と云ひ、神の御意を成す喜に充されて食を忘れ給ひぬ。宛も畫家や詩人が其作を成す爲には煩悶苦吟すれども之を爲すを止むる能はざるが如し。言難き樂み此中にあるなり。

さて神の意志は如何なるものなるか。耶蘇の示したる神は其の智慧と威力絕大たる神なれども、之を以て人を壓して己の意志を果たす神に非ず。仁愛柔和忍耐の德に充てり。人類の良心が喜んで神に歸り善に從ふを待つ。宛から放蕩息子の父が其の子の歸るを待つが如し。人の意志は喜んで自由に神の意志に合致し得べし。これ人類の特權にして神が無機物や動植物を支配すると人類を支配すると異なる所以なり。詩篇の作者は『汝は謙卑我を大ならしめたまへり』(詩十八〇三十五)と歌へり。神に謙遜の德あるが故に人は大なるものとなり得るなり。人の意志が喜んで神の意志に一致する所に、物質の國にあらず動植物の國にあらざる神の國あり精神的王國あるなり。

神の國は人生最高の理想なり。耶蘇の示したる神の國とは如何なるものなるか。學者の解釋區々なれどもこゝに之を論ずる必要なし。ヘルマンと云ふ人の定義をこゝに擧げんとす。曰く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

耶蘇の解したる所に據れば神の國は個々の人が內的生活と相互の關係に於て神主權を有する意なり神に對する限りなき信賴と隣人に對する限りなき愛とによりて全く神に服從するこれ即ち神の國の臣民なり。

理想の實現

神人の和合より生ずる神の國が人生最高の理想たること既に記せるが如し。この理想は何處に又如何にして實現せらるべきか。

神の國の理想は既に耶蘇基督に於て實現せられたり。耶蘇以後に於ては之を擴張し之を貫徹せしむるあるのみ。この理想が殘る隈なく擴張せられ徹底せしめらるゝには、個々の人の內部的生活と社會の生活との兩面に行き亘らざるべからず。基督教の神の國の理想に於て此の兩面は美しき調和を保てり。歷史上より見るも深く心のうちに入りたる教は又必ず社會的生活の理想を支配する力となる。基督教以前の歷史に就きて見れば、ストアの哲學は大體に於て個人主義の哲學なり。然れども社會上に絶大なる勢力を及ぼせり。基督教の歷史に於てはアウガスチン、ルウテル、カルヴヰンの如き人の思想は非常に個人的にして、個々の人の靈魂と神との關係を重んじ、心のうちの經驗を重ずる宗教なるが、此の人々の如く國家及び政治の上に深甚なる勢力となりしもの少し。深く深く個人の靈魂に堀り入る力は又個人と個人との關係を支配する力となる。

道理より云へば個人先きにして社會後に來る。然れども理想生長の歷史に於ては先づ社會的の理想に現はれて次第に個々の人の精神に建設せらるゝこと少からず。神の國と云ふ理想も亦然り。此の理想は大河の水の溪間の細流より發するが如く、イスラエル人の預言者の驚くべき創始力により生み出だされたり。イザヤ書十一章に曰く

狼は小羊とともに宿り豹は小山羊とゝもにふし犢牡獅子は肥えたる家畜とゝもに居りて少き童子にみちびかれ牝牛と熊とは食物を同にし熊の子と牛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の子と丶もに臥し獅は牛の如く藁をくらひ乳兒は毒蛇の洞に戯れ、乳ばなれの兒は手を蝮の穴に入れんとして我が聖き山の何處にても害ふことなく傷ることなからん、そは水の海をおほへる如くエホバを知る智識地に滿つべければなり。

是は如何なる理想なるか。強き者弱き者を虐げずしてそを愛し之と丶もに居る平和の時代を描けるものなり。預言者イザヤは紀元前七百五十年以後に東にアッスリヤの帝國あり西に埃及あり、兵馬の力のみ獨り盛なる時代に出で、然かも理想の力を疑はず、愛の勢力終に世界を支配して水の海をおほへる如き時來らんことを信じ望みたり。

イザヤの理想は破壞せられず、預言者ダニエルに到りて一層鮮明なる形を以て言ひ現されたり。ダニエル書第七章を讀め、ダニエルは『我れ夜の異象の中に見てありしが四方の天風大海に向ひて烈しく吹きたり。四個の大なる獸海より上り來れり。其の形はおの〱異なり』と、以下獅子の如き獸、熊の如き獸、豹の如き獸、他の十角ある獸出で來りしが、この諸の獸皆終に權威を奪はれて後最後に『人の子の如き者』雲に乘りて來りしに『之に權と榮と國とを賜ひて諸民諸族諸音をして之に事へしむその權は永遠の權にして移り去らず又其の國は亡ぶることなし』。

ダニエルはこの奇異なる幻を以て如何なる意味を傳へんとせるか。もろ〱の獸は、アッスリヤ、バビロン、ギリシヤ等武權の帝國なり、最後に來るものは人道の帝國なり。蠻力を支配する時代去りて人道の理想永久に世界を支配する時來ることを信じたるなり。（この節次號につゞく）

けふのねがひ

あだにかがやく　こがねもて
はかなき身をば　かざらんと
われはいまさら　ねがはじな
むねのおもひも　消えぬれば
聲名もいまは　ねがはじな

たかくかすかに　ただよひて
ふかきみどりの　おほ空に
ややにとけゆく　紅雲や
此世のあまき　愛の夢
なれがためにも　いのらじな

されどこころは　いとひくく
伏してたらはぬ　のぞみをば
くまなくのべつ　聖父(ちち)よただ
きみがみむねに　まかせたる
こころをこそは　ねがふなれ

けふしもなほく　ただしかる
きみがみまへに　やはらぎと
やすきをわれは　ねがふかな
しづかに聖手(みて)に　いだかれて
こよなきさちを　さとるべく

くしくもあるか　天地(あめつち)や
奇しくもあるか　生と死や
悟るにかたき　不可思議は

めぐりに上に　はた下に
みちてぞみゆれ　いづこにも

おのがなやめる　こころをば
労せどむなし　哲人の
思想(おもひ)たどれど　甲斐もなし
ただしる人の　むなしきと
よはきとまなこ　しひたると

かくてぞいまは　わがたまは
やどらん家に　あくがれつ
みるべき光明(ひかり)　のぞみつつ
つかれはてにし　稚兒(ちご)のごと
聖父(みちち)よきみに　かへりゆく

砂にかかれし　文字のごと
よわき決意(こころ)の　くだけしは
ああいくそたび　さはいへど
たすけの聖手(みて)を　あはれみに
けふのいのりに　くだしませ

ホイチアー作
森田松栄子譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會の消息

◎日本基督教女子青年會

△文學博士元良勇次郎氏は久しく病床にをられ一時病怠りたるが如くなりしも遂に十二月十二日永眠せられたり令孃大平操夫人元良靜子氏は夙に本會々員として厚き同情を持たるゝ方々なり、本會一同は御遺族の爲神の御慰藉を祈りて止まざるところなり

△米國ボートランドの女子青年會幹事ミス、フイールドンは印度ホンベイ市の青年會へ轉任の途次十一月五日本部を訪問せられたり

△十一月十五日河井總幹事には名古屋金城女學校を訪問し同校青年會設立に付て協議をなしゝに同校一致を以て設立を可決し直に會を組織し役員選擧を行はれたり尚ほ本年二月の委員會を經て更に本部と同盟を結ぶに至るべし

△十一月二十三日河井總幹事は足利に趣き同地婦人會に出席し且町の有力者と彼地に於ける精神的團體組織に付て相談す

△十二月六日午後一時より本部に於て後藤久子姉の爲植村牧師の下に洗禮式を行ふ出席者は河井道子後藤夫人南牧師高倉氏同夫人廣岡淺子大呑ひさ子齋藤文子門倉ふじ子ミス、ウエスト小橋三四子加藤たか子ミス、マクドナルド、ミス、レーガン、三田靜子等諸姉にて式はいと嚴かに進行せられ式後は更に團欒して茶菓を喫しつゝ語り合ひ一同靜けく且喜びに滿ちたり因に久子姉は法學士佐藤吉郎氏と華燭の盛典を擧られ近々に旅順に新家庭を造らるゝ筈なり、久子姉は今後信仰的生涯を成さんとて結婚式の前日に受洗されし御決心は深き感動を友人等に與へたり、同氏は必らず御良人をも御全家をも神に導かるゝため善き戰をさるゝ樣會員の祈こそ願はしけれ

△十二月八日東京府下千駄谷日本キリスト教會にて大呑ひさ子姉は南牧師より受洗せられたり、會員諸姉が益々公然と主の名に入らるゝは欣喜に堪えず

△十二月八日スウエーデンよりシユネーダ伯爵夫人來られ本部を訪問せられたり

△今回本部及三番町東京青年會に於て電話開設せられたり本部は「番町四五六三」三番町は「番町四五六二」

△此度ミス、ダルトン、ミス、キヤツスルス兩氏の歸

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

力により設立せられたる赤坂檜町一〇なる外人宿泊所に於ては十二月十日及十一日の兩日を期し廣く青年會委員會員其他有力なる同情者を招きて茶話會を催し設備完うせられたる各室を一同に紹介せられたり斯くの如き設備完全なる宿泊所に溫き待遇をうけらるゝ宿泊者等は如何に滿足せらるゝ事ならむと一同語り合へり來會者は二日間に八十餘名なりしと

△十二月十八日米國カナダよりミスカフマン來朝されたり同氏はアメリカプラント大學の卒業にしてマクドナルド幹事の友人なり數年前世界一週の際當地に數ケ月間滯在せられ女子英學塾を助けられし事ありき、此度再び來朝せられ特志幹事として我青年會を助けらるべし暫時 語學を研究 せらるゝ由 先頃ミス、ベーカルの來朝あり此度また斯る良幹事を得たるは我青年會の前途のため深く感謝すべきなり

△横濱クラブ設立に付ては大體の計畫成りたるも先月中は年末の事とて凡ての方面に運び難かりしが同情者は益々多く本年は早々設立の準備に取掛る筈

◎東北女子青年修養會

△兼ねて計畫中なりし東北女子青年修養會は愈々去る十一月二十九日より三日間宮城女學校に於て開かれたり宮城女學校女子青年會はたゞに同校又は在仙臺市の學生の爲のみならず廣く東北各地の一般學生のためにも會合を共にして其幸を頒たんことを祈りし事久しかりしが此度愈々其第一回を開催するに至りしなり會の狀況等はいづれ報告書を得ば次號に記載する事とし茲には其順序を揭ぐ

東北女子青年修養會

○會期 大正元年十一月二十九日(金)より十二月一日まで三日間

○會場 仙臺市東三番町宮城女學校內

○宿泊 他地方よりの來會者のため宮城女學校寄宿舍內に宿泊の準備を致せり。宿泊費用は

寄宿舍滯在費
金五拾錢(一泊三食)金四拾錢(一泊二食)
金參拾五錢(一泊一食)金拾五錢(一食)

○執行順序

聖言 先づ神の國と其義とを求めよ(馬太、六ー三三)

十一月二十九日(金)

一開會式 自午前九時至同十時 司會者 小野さわ子
一聖書研究 自午前十時至同十一時
(一) 山田千代子
(二) 笹尾粂太郎
一講演 自午前十一時至正午
同志共働の意義 河井道子
一講演 自午後三時至同四時
神の國 ミス、マクドナルド

一講演　自午後七時至同八時　祈禱　山田千代子

十一月三十日(土)

一早天祈禱會　自午前六時至同六時半

一祈禱會　自午前八時至同八時半　司會者　小野寺みきよ

一聖書研究　自午前九時至同十時　司會者　岩崎うた子

(一)　山田千代子

(二)　笹尾粂太郎

一講演　自午前十時半至同十一時半

自我の實現　出村悌三郎

一講演　自午後三時至同四時

神の住家　河井　道子

一講演　自午後七時至同八時

社會改良と婦人　山室　軍平

十二月一日(日)

一早天祈禱會　自午前六時至同六時半

一說教　自午後二時半至同三時半　司會者　小島はる子

人を救ふ力　山室　軍平

一講演　自午後七時至同八時

前途に光明ありや　河井　道子

一閉會式　午後八時

◎東京基督教女子青年會

▲女子青年會の如き團體は至て精神的のものですから人々の思想の進步と多くの厚き同情者及其助力に依て發展し行くものであります、而して近頃我國の大なる進步を見んには婦人に靈的生命を與ふるの必要を感ずる者多く、本會の如きも家事多端なる婦人が委員として勞せらるゝのみならず其他此事業を繼續せんために資金其他を寄與せらるゝ不少眞に感謝に堪へざる次第であります。

▲我が女子青年會は僅に七星霜を經たに過ぎないですが漸次成長しつゝありまして前年に比べますと會員數は百二十九名が二百〇三名になり其中に聖書研究會の生徒が二十二名計あります、今年中を通じて聖書研究の組は八組增して二十組となりました、其集會者の中には女子學生は勿論各會社銀行商店官衙等に勤務せる婦人又は看護婦等もありまして現今は小石川牛込の兩寄宿舍及本會に於て其集會を開いて居りますが此働は頗る有望にして且必要なれば將來益擴張發展せしむるべく神田本鄉等各方面へも新しき働場所を得んことを願つて居ります。

▲本會の事業の爲には多大の資金を要することで現に敷地費として六千圓建物費として八千圓の寄附がありましたが、まだ之れ丈けでは到底豫定の設備を遂げることは出來ませんので猶ほ寄附金を募つて居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ります且第二寄宿舍敷地購入費の負債未濟額約四千圓を要することになつて居りますので此等のため委員は目下苦心して働いて居ります

▲本會の經常費は一ヶ年凡そ六百圓を要しますが之は單に本會事務所に於ける費用に過ぎません、本會所屬の兩寄宿舍は各自治でありますが時に不意の被害其他の場合に於て補助することもあります。

▲最早本年も餘日がありませんが感謝を以て此の年を送ると共に新しき希望の年を迎へて一層の勇氣を鼓し所つて益本會の發展を圖り大なる活動を致したいと勵んで居ります。

▲小宮珠子夫人には聖公會に屬し立敎高等女學校の敎職にゐらせられ福井夏子夫人には江原素六氏の令孃にしてメソデイスト敎會にゐらせられますが御兩人とも今回深き御同情を以て新に本會の委員として御盡力を賜はる事となり本會一同深く感謝する所であります。

▲昨年のクリスマスには相互の贈答を廢して其金額を本會に寄贈せられし方多く其額は三十圓内外に達しました、其金額は工場傳道其他の方面に用ひました、而して本會へ加入を申込まれた方も十五名程もありましたが本年も亦昨年より以上の好結果を望んで居ります

▲本年のクリスマスは本會所屬の小石川第二寄宿舍日曜學校では二十日に開會し守屋姉の面白きお話がありまして四十名程集りました、二十一日には第一第二兩寄宿舍聯合にて納戸町寄宿舍内に於て二十五日には本部及本會の兩日曜學校の爲本會事務所内に於て催しました、又た二十四日午後二時半より本會のクリスマスとして新渡戸博士の御宅にて開き博士の講話を請ひ寄宿舍生の祝歌などありました、又た、來一月三日には工場のクリスマスを催し山室軍平氏に御話を願ひ工女へはカード工場内の病人へは花を贈ることになつて居ります(十二月二十五日報告)

◎橫濱共立女學校女子青年會

△十一月十日。萬國學生祈禱週の初日とてフエリス女學校女子青年會と聯合の上小幡博士を聘し同女學校講堂に於て祈禱會を開きぬ　△十一日より十六日まで六日間日に二回づゝ祈禱會を開きたり　△十一月二十五日。青年會事務會執行決議事項數項　△十一月廿六日。傳道部委員及其他の有志者相つれて市内中村町八幡谷戸なる貧困者の訪問に赴きたり。此日及前後にわたりて訪問せし貧困者の數は四十五戸なりき　△十一月二十八日(木曜日)待ちに待ちし感謝日とて會員はじめ一同は大いに喜び各々過去一年間に受けし惠の幾分を感謝せんため米穀果實金子おもひ〳〵に持ち來りて捧げたり定刻八時三十五分より感謝禮拜を講堂にて行ひたり　△廿八日午後三時より集り來れる貧困者に昨日の捧げ物を分ち與へぬ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

院長診察 月、水、木、金、午前 入院診斷後應需
松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

東洋內科醫院

電話本局 八八八(病院用) 八九八(私宅用)

東京神田區駿河臺鈴木町二
御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町相海濱
從停車場半里
電チガサキ二番

南湖院

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
院長診察、土曜日午後、入院 診後應需

National Committee

Headquarters, 12Tamachi Sanchome Ushigome, Tokyo

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kawai,
Active Member World's Committee
Chairman Women's Sub-committee
World's Student Christian Federation
Miss Matsu Okonogi,
Editor "Joshi Seinen Kai"

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M.F. Denton, Kyoto
Miss Matsu Okonogi	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss N.B. Gaines, Hiroshima
Miss Tei Ninomiya	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Mrs. G. M. Fisher	
Miss Sarah Ellis	
Miss Chiyo Yamada	
Mrs. E. W. Clement	

Secretaries
Miss Michi Kawai, National
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret L. Matthew, General, Tokyo
Miss G. R. Watney, Associate, Tokyo
Miss Mary Page, Special Worker

部數	定價(郵稅共)	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五拾錢	金壹圓

廣告	
一頁	金六圓
半頁	金三圓五拾錢
半段	金貳圓
一行	金貳拾錢

大正元年十二月廿八日印刷
大正二年一月一日發行

發行所 東京市牛込區田町三丁目十二番地 日本基督教女子青年會
編輯兼發行人 東京市牛込區田町三丁目十二番地 河井道子
印刷人 東京市赤坂區田町五丁目十一番地 齋藤鉛
印刷所 東京市赤坂區田町五丁目十一番地 齋藤活版所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

諒闇の新正月の讀物

■小野村林藏　吹田佳三氏共譯■

アントニオ フオガツツアロ

小説

聖者

アルプスの寒風もこゝに至れば、薔薇花の香を浮べ、地中海の激浪もこゝに至れば、煙霞の夢を結ぶとかや。南歐の美國、伊太利半島はげに詩に充ち夢に滿つ。その詩と、夢との郷土の情は、凝つて一篇の「聖者」となりぬ。是れ、宗教小説の傑作、また純文藝としてみるも、傑作たるを失はず。

菊判畫入美本
紙數六百餘頁
定價一圓五十錢
郵税十二錢

■小西增太郎氏著■

聖地パレスチナ

三色版コロタイプ版挿入寫眞數十枚を揭ぐ

一月初旬發行

■松本雲舟氏譯■

日々の祈

日々の力の源泉出づ

一月元旦よりの使用に備ふ

□定價四十錢□郵税六錢、

本書は古今敬虔なる信者の祈りを網羅し、これを一年三百六十六日に配當し以て信者の祈の模範たり、又その日用の糧たらんことを期せるもの也。

發兌　東京京橋銀座　警醒社書店　振替東京五五三番

大正二年一月一日納本發行（毎月一回一日發行）

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN.

(Joshi Seinen Kai)

Volume X. *January 1913* *No. 1*

The Unfading Hope	Miss Michi Kawai
The Faith Which Has Foundation	Dr. J. Takagi
The Kingdom of God (I)	Miss A. C. Macdonald
The Way of Happiness	Miss Tei Ninomiya
To a Widowed Mother	Mr. T. Oshio
On the Culture of the Spirit	Mr. T. Shirai
Christ and Life (II)	Mr. E. Kashiwai
Poems (Translated from Whittier)	Miss Matsuye Morita
Association Notes	
National Y. W. C. A.	
Young Women's Conference of the Tōhoku District	
Tokyo Y. W. C. A.	
Yokohama Kyōritsu Jo Gakkō	

The Official Organ of the National Committee of Young Women's Christian Associations of Japan.

（東京赤坂區田町 齋藤活版所

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA